



2023年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月13日

上場会社名 Sansan株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4443 URL <https://jp.corp-sansan.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役/CEO (氏名) 寺田 親弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役/執行役員/CFO (氏名) 橋本 宗之 TEL 03 (6758) 0033
 四半期報告書提出予定日 2022年10月13日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
 四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年5月期第1四半期の連結業績 (2022年6月1日~2022年8月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		調整後営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第1四半期	5,714	24.3	△227	-	△265	-	△173	-	△325	-
2022年5月期第1四半期	4,597	25.4	△85	-	△102	-	754	644.3	652	662.8

(注) 包括利益 2023年5月期第1四半期 △282百万円 (-%) 2022年5月期第1四半期 △456百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年5月期第1四半期	△2.61	-
2022年5月期第1四半期	5.23	5.15

- (注) 1. 2021年12月1日付で普通株式1株を4株とする株式分割を行っています。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しています。
 2. 2023年5月期第1四半期は潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年5月期第1四半期	25,490	11,889	45.9
2022年5月期	26,292	12,093	45.4

(参考) 自己資本 2023年5月期第1四半期 11,706百万円 2022年5月期 11,944百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年5月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年5月期	-	-	-	-	-
2023年5月期 (予想)	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2023年5月期の連結業績予想（2022年6月1日～2023年5月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		調整後営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	25,117 ～25,764	23.0 ～26.2	917 ～1,288	25.5 ～76.3

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 営業損益以下の段階損益については、当社の株価水準によって大きく変動する可能性のある株式報酬関連費用や、一部の営業外損益等の合理的な見積もりが困難であることから、具体的な予想数値の開示は行っていません。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年5月期1Q	125,020,436株	2022年5月期	124,963,596株
② 期末自己株式数	2023年5月期1Q	785株	2022年5月期	736株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年5月期1Q	124,975,016株	2022年5月期1Q	124,740,273株

（注）2021年12月1日付で普通株式1株を4株とする株式分割を行っています。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、「期末発行済株式数」「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しています。

※ 四半期決算短信は公認会計士または監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「出会いからイノベーションを生み出す」というミッションの下、「ビジネスインフラになる」というビジョンを掲げ、クラウドソフトウェアにテクノロジーと人力によってアナログ情報をデジタル化する仕組みを組み合わせた手法を軸に、人や企業との出会いをビジネスチャンスにつなげる、働き方を変えるDXサービスを提供しています。

具体的には、企業の営業活動や請求書業務、契約書業務等に対して、デジタルトランスフォーメーション(DX)を促進するサービスを展開しており、DXへの意識改革やコロナ禍による働き方の変化、SaaSビジネスへの関心の高まり等によって、DX市場は2030年に5兆1,957億円(2020年比3兆8,136億円増)(注1)、国内SaaS市場は2026年に1兆6,681億円(2022年比5,790億円増)(注2)の規模に達すると予想されています。当社が提供する営業DXサービス「Sansan」は、法人向け名刺管理サービス市場において83.1%のシェア(注3)を占めており、同市場は当社サービスの成長等につれて、2013年から2020年にかけて13倍に拡大しています。また、当社が提供するインボイス管理サービス「Bill One」は、クラウド請求書受領サービス市場においてNo.1の売上高シェア(注4)を獲得しており、2021年度の同市場は、前年同期と比べて226.0%増加しています。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は以下の通りです。

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	4,597	5,714	+24.3%
売上総利益	4,088	4,930	+20.6%
調整後営業利益(注5)	△85	△227	-
経常利益	754	△173	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	652	△325	-

当第1四半期連結累計期間においては、中期的な売上高成長の実現に向け、「Sansan」や「Bill One」における営業体制やマーケティング活動の強化を行ったほか、各サービスの機能拡充等に取り組みました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は前年同期比24.3%増、売上総利益は前年同期比20.6%増、売上総利益率は前年同期比2.6ポイント減の86.3%となり、堅調な実績となりました。一方で、調整後営業利益は前年同期比で142百万円減少しましたが、これは、積極的な人材採用を進めたことで人件費が前年同期比で439百万円増加したことに加え、マーケティング活動の強化によって広告宣伝費が前年同期比で285百万円増加したこと等によるものであり、期初に公表した通期連結業績予想に沿った実績です。また、経常利益は前年同期比で927百万円の減少、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比で978百万円の減少となりましたが、これは、前年同期においては投資有価証券売却益979百万円を営業外収益に計上していたこと等によるものです。

- (注) 1.「2022 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望 市場編、ベンチャー戦略編」富士キメラ総研
 2.「ソフトウェアビジネス新市場 2022年版」富士キメラ総研
 3.「営業支援DXにおける名刺管理サービスの最新動向2022」(2021年12月 シード・プランニング調査)
 4. デロイト トーマツ ミック経済研究所「驚異的な成長が見込まれるクラウド請求書受領サービス市場の現状と将来」(ミックITレポート2022年7月号)
 5. 従来、営業利益または損失(△)を表示していましたが、当第1四半期連結会計期間より経営上重視する業績評価指標を当社の株価水準に応じて大きく変動する可能性のある株式報酬関連費用や企業結合に伴い生じる費用を控除した恒常的な企業の収益力を表す指標に変更したことに伴い、営業利益または損失(△)に株式報酬費用及び企業結合に伴い生じた費用(のれん償却額及び無形固定資産の償却費)を加えた調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。なお、前第1四半期連結累計期間についても、営業利益または損失(△)は変更後の調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。

セグメント別の業績は以下の通りです。

①Sansan/Bill One事業

当事業セグメントには、営業DXサービス「Sansan」やインボイス管理サービス「Bill One」等のサービスが属しています。
当第1四半期連結累計期間におけるSansan/Bill One事業の成績は以下の通りです。

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高(注6)	4,160	5,147	+23.7%
「Sansan」	4,068	4,701	+15.5%
「Sansan」ストック	3,899	4,451	+14.1%
「Sansan」その他	169	250	+48.1%
「Bill One」	89	401	+346.1%
その他	2	44	+1,916.7%
調整後営業利益	1,142	1,221	+6.9%
「Sansan」			
契約件数	7,992件	8,644件	+8.2%
契約当たり月次ストック売上高	164千円	173千円	+5.5%
直近12か月平均月次解約率(注7)	0.62%	0.59%	△0.03pt
「Bill One」			
MRR(注8)	32	140	+332.1%
有料契約件数(注9)	280件	930件	+232.1%
有料契約当たり月次ストック売上高	116千円	151千円	+30.2%
直近12か月平均月次解約率(注7)	-	0.45%	-

(注) 6. 外部顧客への売上高及びセグメント間の内部売上高または振替高の合計値

7. 各サービスの既存契約の月額課金額に占める、解約に伴い減少した月額課金額の割合

8. Monthly Recurring Revenue(月次固定収入)、算出方法の見直しにより、前第1四半期連結累計期間の値を変更

9. 集計タイミングを契約締結完了時点からサービス利用開始時点に見直したことにより、前第1四半期連結累計期間の値を変更(見直し前の算出方法を適用した場合、当第1四半期連結累計期間の値は1,015件)

a.「Sansan」

「Sansan」の契約件数及び契約当たり月次ストック売上高のさらなる拡大に向け、クラウド名刺管理サービス「Sansan」を「営業を強くするデータベース」をコンセプトに、営業DXサービス「Sansan」へと刷新し、新たな機能の搭載に取り組みました。具体的には、「Sansan」上で100万件以上の企業情報が閲覧できる企業データベースのほか、名刺だけではなくメール署名等の接点情報を蓄積し可視化できる機能を搭載しました。ユーザーは、これらの接点情報と企業データベースを組み合わせることで、接点のない企業の情報も含めた利用企業ならではのデータベースを「Sansan」上に構築することが可能になります。

これらのプロダクト刷新に関する取り組みや営業体制の強化の結果、主に中小企業の新規契約獲得が進み、「Sansan」の契約件数は前年同期末比8.2%増、契約当たり月次ストック売上高は前年同期比5.5%増となりました。また、直近12か月平均の月次解約率は、既存顧客の利用拡大に対する継続的な取り組みを行った結果、前年同期比0.03ポイント減の0.59%となり、低水準を維持しました。

この結果、「Sansan」売上高は前年同期比15.5%増、うち、固定収入であるストック売上高は前年同期比14.1%増、その他売上高は前年同期比48.1%増となりました。

b.「Bill One」

「Bill One」の高成長継続に向け、人材採用をはじめとした営業体制の強化やサービスの機能拡充等に取り組んだ結果、2022年8月におけるMRRは前年同期比332.1%増、ARR（注10）は1,690百万円となりました。また、中堅・大企業の新規契約獲得が進み、有料契約件数は前年同期末比232.1%増、有料契約当たり月次ストック売上高は前年同期比30.2%増となりました。

この結果、「Bill One」売上高は前年同期比346.1%増となりました。なお、人材採用やマーケティング活動の強化、サービスの機能拡充等を進めることで、2023年5月末におけるARRは前年同期の2倍以上を目指しています。

（注）10. Annual Recurring Revenue（年間固定収入）

c. その他

既存サービスで培った強みや知見、ノウハウ等を活かして、クラウド契約業務サービス「Contract One」等の立ち上げに注力しました。

この結果、その他売上高は前年同期比1,916.7%増となりました。

以上の結果、Sansan／Bill One事業の売上高は前年同期比23.7%増となりました。調整後営業利益は、「Sansan」や「Bill One」のさらなる成長実現のための投資を強化しながらも、前年同期比6.9%増となりました。

②Eight事業

当事業セグメントには、キャリアプロフィール「Eight」のほか、イベント書き起こしサービス「logmi」シリーズが属しています。

当第1四半期連結累計期間におけるEight事業の成績は以下の通りです。

（単位：百万円）

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高（注11）	424	533	+25.8%
BtoCサービス	71	72	+2.1%
BtoBサービス	352	460	+30.6%
調整後営業利益	△176	△135	-
「Eight」			
「Eight」ユーザー数（注12）	296万人	315万人	+18万人
「Eight Team」契約件数	2,342件	3,008件	+28.4%

（注）11. 外部顧客への売上高及びセグメント間の内部売上高または振替高の合計値

12. アプリをダウンロード後、自身の名刺をプロフィールに登録した認証ユーザー数

a. BtoCサービス

新規ユーザー登録時における新たな機能の搭載等、サービスの機能拡充に取り組んだ結果、「Eight」ユーザー数は前年同期末比18万人増の315万人となり、BtoCサービス売上高は前年同期比2.1%増となりました。

b. BtoBサービス

各種BtoBサービスのマネタイズ強化に取り組んだ結果、BtoBサービス売上高は前年同期比30.6%増となり、「Eight Team」契約件数は前年同期末比28.4%増となりました。

以上の結果、Eight事業の売上高は前年同期比25.8%増、調整後営業損失は前年同期と比較して40百万円縮小しました。

(2) 財政状態に関する説明

(単位:百万円)

	前連結会計年度	当第1四半期 連結累計期間	前連結 会計年度末比
資産合計	26,292	25,490	△801
負債合計	14,199	13,600	△598
純資産合計	12,093	11,889	△203
負債純資産合計	26,292	25,490	△801

(資産)

当第1四半期連結累計期間末における資産合計は25,490百万円となり、前連結会計年度末に比べ、801百万円減少しました。これは主に、売掛金の減少284百万円及び投資有価証券の売却による減少1,077百万円、現金及び預金の増加565百万円及び前払費用の増加198百万円によるものです。

(負債)

当第1四半期連結累計期間末における負債合計は13,600百万円となり、前連結会計年度末に比べ、598百万円減少しました。これは主に、未払金の減少146百万円、未払法人税等の減少328百万円、未払消費税等の減少141百万円、賞与引当金の減少211百万円及び長期借入金の減少118百万円、顧客企業から契約期間分の料金を一括で受領すること等による前受金の増加432百万円によるものです。

(純資産)

当第1四半期連結累計期間末における純資産合計は11,889百万円となり、前連結会計年度末に比べ、203百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少325百万円、新株予約権の行使による資本金の増加24百万円及び資本剰余金の増加24百万円、新株予約権の増加30百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月期の連結業績予想については、2022年7月14日に公表した内容から変更はありません。なお、当期において実施する広告宣伝活動は、当第1四半期での比重が大きい計画であったことから、当第1四半期連結累計期間の調整後営業利益は赤字額の計上となりましたが、第3四半期以降は黒字額を計上する見通しです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,432	15,997
売掛金	756	471
前払費用	478	676
その他	194	238
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	16,856	17,380
固定資産		
有形固定資産	806	764
無形固定資産		
ソフトウェア	917	901
のれん	229	222
その他	0	0
無形固定資産合計	1,147	1,125
投資その他の資産		
投資有価証券	6,262	5,184
敷金	793	765
繰延税金資産	416	263
その他	10	7
投資その他の資産合計	7,481	6,221
固定資産合計	9,435	8,110
資産合計	26,292	25,490

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	253	153
1年内返済予定の長期借入金	477	474
未払金	1,081	934
未払法人税等	380	51
未払消費税等	398	257
前受金	8,199	8,631
賞与引当金	487	276
その他	229	237
流動負債合計	11,507	11,017
固定負債		
長期借入金	2,547	2,429
その他	144	154
固定負債合計	2,691	2,583
負債合計	14,199	13,600
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,426	6,450
資本剰余金	4,023	4,047
利益剰余金	1,384	1,059
自己株式	△1	△1
株主資本合計	11,832	11,555
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	85	111
為替換算調整勘定	26	39
その他の包括利益累計額合計	112	151
新株予約権	142	173
非支配株主持分	5	9
純資産合計	12,093	11,889
負債純資産合計	26,292	25,490

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
売上高	4,597	5,714
売上原価	508	784
売上総利益	4,088	4,930
販売費及び一般管理費	4,190	5,196
営業損失(△)	△102	△265
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	0
解約違約金収入	0	-
助成金収入	0	3
投資有価証券売却益	979	291
その他	21	1
営業外収益合計	1,002	297
営業外費用		
支払利息	3	3
為替差損	0	12
支払手数料	6	1
持分法による投資損失	128	179
投資事業組合運用損	-	1
その他	5	7
営業外費用合計	145	204
経常利益又は経常損失(△)	754	△173
特別利益		
新株予約権戻入益	-	0
特別利益合計	-	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	754	△172
法人税、住民税及び事業税	113	4
法人税等調整額	△7	144
法人税等合計	105	149
四半期純利益又は四半期純損失(△)	648	△322
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3	3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	652	△325

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	648	△322
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,102	25
為替換算調整勘定	△2	13
その他の包括利益合計	△1,105	39
四半期包括利益	△456	△282
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△452	△286
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	3

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更に関する注記）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いにしたがって、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしています。

なお、時価算定会計基準適用指針の適用による当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	Sansan/Bill One事業	Eight事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,160	422	4,583	13	4,597
セグメント間の内部売上高 または振替高	-	1	1	0	1
計	4,160	424	4,584	13	4,598
セグメント利益または損失 (△) (注) 2	1,142	△176	966	2	969

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでいます。

2. セグメント利益または損失(△)は、営業利益または損失(△)に株式報酬費用及び企業結合に伴い生じた費用(のれん償却額及び無形固定資産の償却費)を加えた調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。

(単位: 百万円)

	Sansan/Bill One事業	Eight事業	その他	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
セグメント利益または損失(△)	1,142	△176	2	△1,054	△85
株式報酬費用	5	1	-	4	11
のれん償却額及び無形固定資産 の償却費	-	5	0	-	5
営業利益または損失(△)	1,137	△182	2	△1,059	△102

(注) 調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年6月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	Sansan/Bill One事業	Eight事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,146	533	5,680	34	5,714
セグメント間の内部売上高 または振替高	0	0	0	21	21
計	5,147	533	5,680	55	5,736
セグメント利益または損失 (△) (注) 2	1,221	△135	1,086	△9	1,077

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでいます。

2. セグメント利益または損失(△)は、営業利益または損失(△)に株式報酬費用及び企業結合に伴い生じた費用(のれん償却額及び無形固定資産の償却費)を加えた調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。

(単位:百万円)

	Sansan/Bill One事業	Eight事業	その他	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
セグメント利益または損失(△)	1,221	△135	△9	△1,304	△227
株式報酬費用	12	5	-	12	31
のれん償却額及び無形固定資産の償却費	-	5	1	-	6
営業利益または損失(△)	1,208	△145	△10	△1,317	△265

(注) 調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益または損失の測定方法の変更)

従来、セグメント利益または損失(△)を営業利益または損失(△)にて表示していましたが、当第1四半期連結会計期間より経営上重視する業績評価指標を当社の株価水準に応じて大きく変動する可能性のある株式報酬関連費用や企業結合に伴い生じる費用を控除した恒常的な企業の収益力を表す指標に変更したことに伴い、営業利益または損失(△)に株式報酬費用及び企業結合に伴い生じた費用(のれん償却額及び無形固定資産の償却費)を加えた調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても、セグメント利益または損失(△)は変更後の調整後営業利益または損失(△)にて表示しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。